なすしおばら げんきびと 元気人

あなたの身近な元気人を募集中

チャレンジing 那須塩原

>>> 西那須野スキースポーツ少年団　団長
市スポーツ推進委員協議会　会長

No.33

粒来 紀男 さん

昭和55年、西那須野スキースポーツ少年団の立ち上げに関わり、30年以上にわたり団長を務める。平成3年からは、スポーツ推進委員を務め、平成20年に市スポーツ推進委員協議会会長に就任。現職として活動中。

スキーというスポーツを通じて、子どもたちに大切なことを教えてあげたい

平成27年までの4年間、自治会長を務めていたこともある。引き受けたことは、全てを前向きに真剣に取り組んできた

Pick up

冬季は主に福島県で活動しており、初心者から自らのレベルに応じて指導を受けることができる。右奥が粒来さん

色んな学校から児童生徒が集まる西那須野スキースポーツ少年団。その立ち上げに中心メンバーとして関わり、以後37年にわたって子どもたちにスキーの楽しみを教えている粒来さんに話を伺った。

白銀の世界。急斜面を縦横無尽に颯爽と下るスキーヤー。45年前、テレビに映ったその姿に憧れてスキーを始めた当時23歳の青年は、すぐにスキーの魅力にとりつかれた。「もっと上手くなりたい」。自らの滑りに磨きをかけようと追及を続けた彼は、10年後にスキーの指導者の資格を取るまでになった。

37年前に立ち上げた少年団は、冬季に毎週末スキー場で練習を行うだけでなく、年間を通じて体づくりのために活動を行っている。「親御さんから子どもを預かるので、まずは安全第一。特に冬山には本当に多くの危険が潜んでいるので、注意が必要」という。ときに指導が厳しくなるが、「スキーを心の底から楽しんでもらいたい。楽しくなければ、続けられない」と笑顔の粒来さん。

1月の合宿では、あまり話したこともなかった子どもたちが、同じ部屋で生活することも。最初は緊張していた子どもたちも、次第に打ち解け、合宿が終わるころには友達に。そして、親から離れた集団生活では、身の回りの全部を自分でやらなければならない。また、夕食後の反省会では、全員の前で今日の反省を発表する。

「子どもたちにたくさんの経験をさせてあげたい。きっと、これからの人生で役に立つと信じている」。スキーの技術向上だけでなく、人としての成長を大切にする彼はとても朗らかだ。

最近では、昔の教え子が大人になり、教える側として戻ってきてくれる。「このサイクルが生まれ、活動をやっていて本当によかった」と感慨深く話してくれた。

スポーツ推進委員協議会の会長も務める彼の冬は東奔西走。それでも「〝誰かのために少しでも役に立ちたい〟という気持ちで、健康である限り続けたい」と、粒来さんは意気込んでいた。

68歳を迎えた今でも、スキーへの情熱は冷めていない

現在13人の指導者、38人の団員を抱える少年団。3月から団員を募集し、4月に入団式を行うのが恒例になっている

発行・編集　那須塩原市企画部シティプロモーション課
〒325-8501　那須塩原市共墨社108-2
☎0287(62)7109　http://www.city.nasushiobara.lg.jp/